

若林

WAKABAYASHI

協同組合仙台卸商センターの新型コロナウイルス感染症対策について

協同組合仙台卸商センター 専務理事 武田 要二

協同組合仙台卸商センターは、昭和45年に完成した東日本最大の卸売業を中心とした流通団地です。現在、広さ約55.7haのエリアに組合員252社が事業を営んでおります。組合設立から50有余年、経済活動を通して皆様と関わり、また仙台東部地区の一員として安全安心な地域環境維持のため組合をあげて対応しております。

組合は卸町の地域内で組合員のための多くの共同事業を運営しており、(公社)仙台市防災安全協会若林地区で毎年9月に開催している消防技術研修会の会場となっているサンフェスタも組合の共同展示事業所の一つです。

当組合もまもなく10年となる東日本大震災で大きな被害を受け、多くの苦難を周辺地域の皆様とともに乗り越え、時間をかけて復興して参りましたが、今新たに、新型コロナ禍のなかでBCPのあり方も問われる厳しい状況に見舞われております。その中でもコロナ対応で様々な対応を行っているのがサンフェスタ(協同組合仙台卸商センター産業見本市会館)です。

サンフェスタではこれまでハードソフト全般にわたる安全安心に係る仕組みの再点検を行い変化する状況に合わせてながら、対策をとり、事業運営を行っております。具体的には主催者を含め来場者の方々及び搬入・搬出に係わるスタッフの安全・安心を確保するために、当施設の利用に際しての「新型コ

ウイルス感染症防止対策ガイドライン」を国、宮城県、仙台市、業界ガイドラインを反映しながら策定いたしました。基本的対処方針に従って「三つの密」を徹底的に避けるとともに、消毒・手洗いや人と人の距離の確保などの基本的な感染対策はもちろんのこと、検温、体調チェックシートの提出、来場者・関係者を含む全参加者の連絡先登録リストの作成、厚生労働省の接触確認アプリ「COCOA」、また、宮城県のご協力も頂き、みやぎお知らせコロナアプリ「MICA」を施設として利用者登録ができるようになりました。その他、トイレや共有スペースのアルコール消毒による衛生環境の維持等などについて詳細に定めています。

また、1階展示場は、会場室温を変化させることなく約12分で全体の空気を入れ換えることができる全熱交換機を完備しており、また、最大20人までの検温が出来るAIサーモグラフィーカメラを導入するなど、感染防止機能の強化を図りました。

今できる感染対策を最大限行うことにより、展示・商談に係るイベントを可能な限り開催したいという声に応えていきたいと考えています。

今後も、東北の流通拠点としての重要な役割を担う地域、関連施設として感染拡大の防止と社会経済活動維持の両立に向け、感染症拡大防止対策に積極的に取り組んでまいります。



サンフェスタ受付における感染症対策（ビニールシート、アクリル板、アルコール消毒液の設置）



アルコール消毒作業（外注委託スタッフによる徹底した衛生管理）



AIサーモグラフィーカメラによる検温（サンフェスタ北側・東側入口に設置）